



# CSV REPORT 2022

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

*Coca-Cola*

BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

## トップメッセージ

ハッピーなひとときをお届けし、  
社会との共創価値 (CSV) を実現することで  
すべての人に選ばれる存在を目指します。

### コカ・コーラが日本で販売されて65年。 未来へつないでいく想い

昨年、米国ジョージア州アトランタでコカ・コーラが誕生して135年、日本で販売を始めてから65年という節目の年でした。そして今年4月、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスグループ (CCBJHグループ) は、誕生5周年を迎えました。当社の製品をご愛飲いただいているお客さま、そして事業活動を支えてくださっているお得意さま、地域社会のみなさまをはじめ、すべてのステークホルダーの方々に改めて心より感謝申し上げます。

私たちを取り巻く世界は、この5年で大きな変化を遂げ、その変化のスピードは加速しています。このようななかにおいても、誰もが幸せなひとときを求めているということに変わりはありません。CCBJHグループのミッションは「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」ことです。この言葉には、当社の社員一人ひとりが製品・サービスを通じて、すべての人の日々の生活に寄り添い、幸せな時間や人生の場面につながる価値を生み出し、未来につないでいく強い想いを込めています。

### 継続的なビジネス変革の推進により 新たな成長の機会を

このミッションの実現に向けては、まず私たち自身が持続的に成長していかなければなりません。CCBJHグループでは、私たちのビジネスを通じた経済と、社会との共創価値 (CSV : Creating Shared Value) を経営の根幹とし、これらの価値向上に向けた取り組みを推進しています。

経済価値の向上については、厳しい事業環境が続かなかで、コントロール可能な分野に注力してまいりました。引き続き成長基盤となるシェアの拡大を目指すとともに、競争力と収益性のバランスをとった価格・マーケティング投資戦略を実行していきます。また、継続的なビジネスの変革においては、ベンディングチャネルのオペレーションモデルのさらなる進化、物流



ネットワークの最適化、全社的なDX (デジタルトランスフォーメーション) による業務の効率化など、取り組みは着実に効果を表しています。市場環境が正常化した際には、これらが成長の機会につながる強固な基盤になるものと確信しています。私たちを取り巻く環境は依然不透明ですが、変化に機敏に対応することで困難な状況を乗り越え、ビジネスを成長軌道へと回復させていきます。

### 事業活動を通じて社会との共創価値を実現

社会価値向上については、国連が提唱している「SDGs (持続可能な開発目標)」をふまえ、日本のコカ・コーラシステムではサステナビリティフレームワークを策定しました。E (環境) S (社会) G (ガバナンス) 各分野における具体的な目標として「CSV Goals」を策定し、サステナビリティフレームワークの3つのプラットフォーム「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の各領域で、全社を横断した取り組みを加速しています。「多様性の尊重」においては、ダイバーシティ&インクルージョンや女性管理職比率向上の取り組みに注力しています。「地域社会」については、地域とのパートナーシップを強化するとともに、SDGsセミナーの開催やオンライン工場見学を開始し、地域の課題解決や活性化に取り組んでいます。「資源」では、2021年に業界に先駆けてPETボトルのサステナブル素材<sup>\*1</sup> 利用率40%を達成しました。また、2021年10月、日本のコカ・コーラシステムは、国内バリューチェーン全体における温室効果ガス (GHG) を2030年までにスコープ1、2において50%、スコープ3において30%<sup>\*2</sup>削減する目標を公表しました。2022年2月には、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の提言に賛同するなど、2050年までにGHG排出量実質ゼロの達成に向けた取り組みを強化してまいります。

私たちの共創価値実現に向けた継続的な取り組みは評価され、ESG投資の代表的指標「DJSI Asia Pacific」構成銘柄に4年連続で選定、「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」にも選定されています。

\*1 サステナブル素材：「ボトルtoボトル」によるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計  
\*2 削減目標はいずれも2015年比

### すべての人にハッピーなひとときをお届けし、 価値創造の歩みを進めてまいります

CCBJHグループは、今後もみなさまのニーズにお応えしていくため、高い品質基準を維持し、安全で信頼できる製品とサービスを提供し続けてまいります。事業活動を通じて利益を上げながら価値を提供することで、社会全体に好循環なサイクルを生み出していきます。どのように困難な事業環境にあっても、私たちが前に進む原動力は、ステークホルダーのみなさまのために価値を創造し、今後何十年にもわたって選ばれる存在であり続けたいという想いです。「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」ことで、私たちは、持続的な成長に向けて歩みを進めてまいります。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社  
代表取締役社長 カリン・ドラガン

# CSV REPORT 2022 CONTENTS

## SECTION 1 価値創造ストーリー

企業理念「Paint it RED! 未来を塗りがえる。」のもと、CCBJHグループが目指す企業像や方向性を価値創造ストーリーとしてまとめました。

- 01 トップメッセージ
- 03 編集方針、CCBJHグループの情報体系
- 05 ミッション・ビジョン・バリュー
- 07 価値創造プロセス
- 09 サステナビリティフレームワークの考え方
- 11 CSV Goals
- 13 CCBJHグループの製品・ブランド一覧
- 15 財務ハイライト
- 16 外部評価と社外への賛同・参加

## SECTION 2 価値創造への挑戦

価値創造の実現に向けたCSVの取り組みを「多様性の尊重」「地域社会」「資源」のプラットフォームごとに紹介しています。

- 【多様性の尊重】**
  - 17 ハイライト
  - 19 ジェンダー、年齢／世代
  - 21 障がい者支援、LGBTQ
- 【地域社会】**
  - 23 ハイライト
  - 25 地域への社会貢献活動
- 【資源】**
  - 29 ハイライト
  - 31 容器／PET
  - 33 水、温室効果ガス排出量、再生可能エネルギー
  - 35 温室効果ガス(GHG)排出実績および算出方法
  - 37 主な環境データ、第三者保証報告書

## SECTION 3 価値創造を支える基盤

CCBJHグループの価値創造の基盤となる取り組みやグループを牽引する経営体制などを紹介しています。

- 39 お客さま満足
- 40 品質保証
- 41 倫理・コンプライアンス
- 42 人権尊重
- 43 働き方と健康経営
- 45 リスクマネジメント
- 46 コーポレート・ガバナンス
- 47 取締役一覧
- 48 CCBJHグループの概要
- 49 工場見学のご案内
- 50 CSVレポート2022に寄せて

## CCBJHグループの情報体系

私たちは、適時・適切な情報開示を行うことにより、あらゆるステークホルダーのみなさまから正しく理解され、信頼される企業になることを目指しています。持続的成長を実現するためのESG領域(環境・社会・ガバナンス)における戦略や活動などの非財務情報は、「CSVレポート」でお伝えし、私たちの推進する戦略や実績を含む財務情報は、「アニュアルレビュー」および「株主のみさまへ」でお伝えすることにより、統合的な情報開示を行っています。また、より詳細、かつ広範な情報は、ウェブサイトにて公開しています。

### 財務情報



- 決算説明会資料
- 決算短信
- 有価証券報告書

### 非財務情報



- コーポレート・ガバナンスに関する報告書
- ESG関連データ
- GHGプロトコルに基づくCO<sub>2</sub>排出実績

**財務・非財務データ集**

<https://www.ccbj-holdings.com/corporate/download/>

### IR・投資家情報



**IR・投資家情報**

<https://www.ccbj-holdings.com/ir/>

### 社会との共創価値(CSV)



**社会との共創価値(CSV)**

<https://www.ccbj.co.jp/csv/>

### 編集方針

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスグループ(CCBJHグループ)は、飲料事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献することを目指しています。当レポートは、ステークホルダーのみなさまに、CCBJHグループの共創価値(CSV)の理念と実現に向けた取り組みを具体的にお伝えするものです。

参考にしたガイドライン	GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
対象期間	2021年1月1日～2021年12月31日(一部2022年の報告事例を含みます。データの集計期間は、2021年1月～12月末です。)
対象範囲	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社*を対象としています。(グループ体制図はP48をご覧ください)
発行日	2022年6月
用語について	「CCBJHグループ(私たち)」は、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス(株)および連結子会社7社(コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社)を指します。「CCBJ」は、コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)を指します。「CCBJグループ」は、コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)およびコカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社を指します。「ボトラー社」は、日本コカ・コーラが指定する全国のボトリング会社を指します。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ(株)およびボトラー社・関連会社が含まれます。「顧客」は、お客さま(主に消費者を指す)およびお得意さま(主にお取引先を指す)を含みます。

\*コカ・コーラ カスタマー マーケティング(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング(株)、FVジャパン(株)、(株)カディアック、コカ・コーラ ボトラーズジャパンビジネスサービス(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット(株)





## ミッション・ビジョン・バリュー

ミッションの実現に向け  
CCBJHグループは進化し続けます。



このミッション・ビジョン・バリューは、お客さま、株主さま、地域社会をはじめとするあらゆるステークホルダーのみなさまに選んでいただけるパートナーであり続けることを謳っています。  
また、このあるべき姿の実現に向け、持続可能な成長を果たしていくこと、社員と会社がしっかりと学んでいくこと、誠実さと信頼を大切にすることなどを盛り込んでいます。

### Mission

すべての人にハッピーな  
ひとときをお届けし、価値を創造します

### Vision

- すべてのお客さまから選ばれるパートナーであり続けます
- 持続可能な成長により、市場で勝ちます
- 常に学びながら成長します
- コカ・コーラに誇りを持ち、誰もが働きたいと思う職場をつくります

### Values

- 学ぶ向上心を忘れません
- 変化を恐れず機敏に行動します
- 結果を見据え最後までやりきります
- 誠実と信頼に基づいた気高い志で行動します



## “ミッション実現”へのチャレンジ

CCBJHグループの企業理念「Paint it RED! 未来を塗りかえろ。」を総称とする「ミッション・ビジョン・バリュー (MVV)」を社員一人ひとりが常に意識し、業務の変革に取り組むことで、情勢の変化に機敏に対応するなど着実な成果を挙げています。今後も、さまざまな施策を実施し、ミッションの実現を目指していきます。

### 【第1回「CEO MVV AWARD 2021」を開催】

「CEO MVV AWARD」は、CCBJHグループで働くすべての社員やプロジェクトを対象に、バリューに掲げられている4つの要素を実践し、新たなチャレンジにより、組織全体に良い影響をもたらしたチームを表彰する制度です。

2022年1月、「CEO MVV AWARD 2021」表彰式がライブ配信で行われ、総勢237チーム(3,300名)のエントリーの中から最高位の「MVV賞」をはじめ7チームが各アワードを受賞しました。



社長のカリン(写真左)と青木 航(写真右)

### MVV賞

代表者/SCM本部 製造統括部 製造企画部長 青木 航

「多品種高効率な稼働の達成と非製造時間の最適化」を目指し、組織を横断する150名近いメンバーと小さな改善を積み上げ、より自由度の高い供給体制を実現いたしました。サプライヤーさまをはじめ、海外ボトラー、日本コカ・コーラのみならずからも知見を頂戴し、現有資産を最大限に活用しました。これからも組織全体で日々の業務に真摯に取り組みながら、“ミッション実現”へチャレンジしていきます。



### 【社長とのカフェミーティング】

MVVについて深く理解し、社員一人ひとりが実践につなげることを目的として、社長と社員によるカフェミーティングを定期的に行っています。

役員とオープンな対話ができる機会を通して、MVVをテーマに、前向きで活発なディスカッションが行われています。

### 【MVV実践の共有】

社内イントラネット「WE NET」や社内SNSを活用し、社長をはじめとする役員から、定期的に動画を発信しMVVの考え方や想いをダイレクトに伝えています。

社員からは、日々の業務を通じたMVVの実践事例を紹介することで、新たな社員の気づきとなり、さらなるMVVの理解と実践へとつなげています。



社長や役員メッセージ LinkedInにて発信中  
<https://www.linkedin.com/company/ccbjh/videos/>



# 価値創造プロセス

## すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造します



### 主な資本・強み

#### 知的資本

「コカ・コーラ」などのグローバルブランドや世界のコカ・コーラシステムネットワークへのアクセス

10億ドルブランド  
世界の  
21ブランド  
コカ・コーラボトラー  
約225社

#### 製造資本 (設備など)

イノベーション実現とソリューション提供を実現する強固なサプライチェーン・販売基盤

製造拠点 営業/物流拠点 自動販売機  
17工場 約320カ所 約70万台

#### 人的資本

多様な人材(多様性尊重、グローバル人材、飲料のプロ)と能力を最大に発揮できる働き方基盤

社員数  
約15,000名

#### 自然資本

限りある地球資源を使用する企業としての社会的責任の認識とCSV推進体制

水使用量 水源涵養率  
12,993千㎡ 353%

※「水使用量」は、製品製造に使用した水(製品となった水を除く)の総量です。

#### 社会関係資本

地域社会をはじめとするステークホルダーとの強固な信頼関係

営業地域 エリア内人口  
1都2府35県 1億1,200万人

#### 財務資本

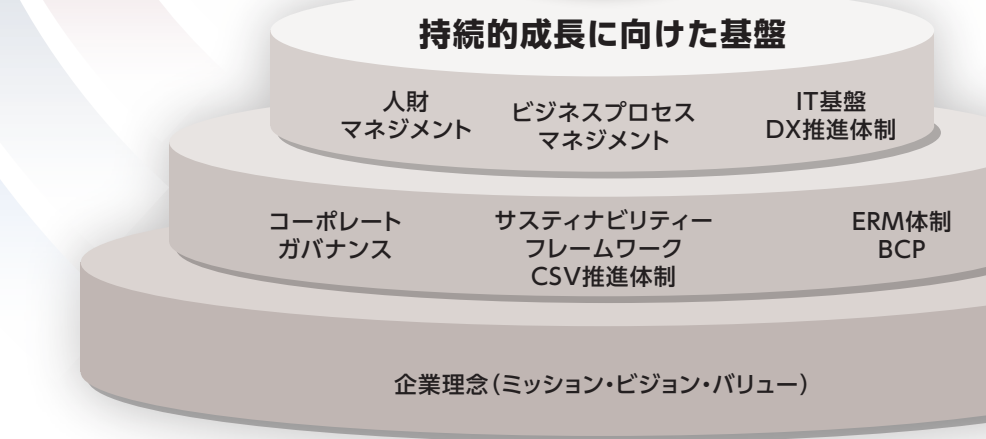
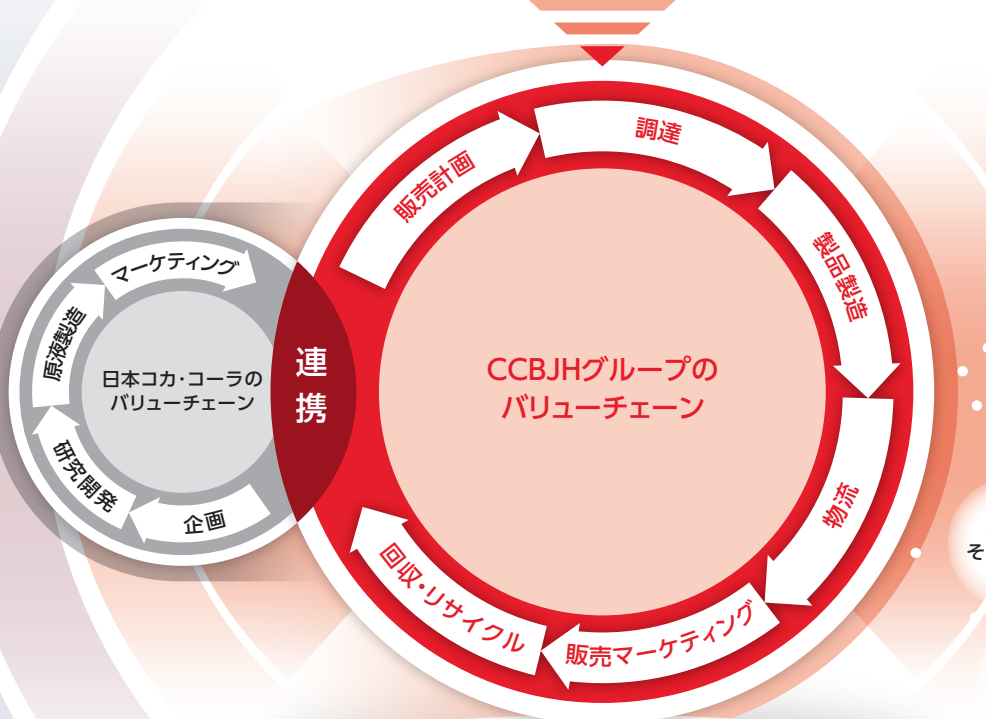
強固な財務基盤

資産合計 格付  
約8,700億円 A+(R&I)/AA-(JCR)

サステナビリティフレームワーク	[CSV Goals] 重点課題
多様性の尊重	ダイバーシティ & インクルージョン
製品	(ニーズに合わせた製品開発/健康サポート)
地域社会	社会 (地域社会への貢献)
資源	World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)
水	
気候変動	
調達/人権	(事業基盤の強化)

### 日本コカ・コーラとのパートナーシップ

- ▶ 当社は、日本コカ・コーラから調達した製品の主原料である原液を使用し、そのほかの原材料・資材の調達、最終製品の製造、物流、販売、販売起点におけるマーケティング活動等を行っています。日本コカ・コーラは、原液の供給と製品の企画開発や広告などの消費者マーケティング活動を担います。
- ▶ 日本の飲料ビジネスの持続的な成長に向けて、バリューチェーンのあらゆる面において密に連携・協業しています。



### Beverages for Life

人々の一生と日々の生活に寄り添う飲料

40ブランド以上  
※2021年4月時点  
600種類以上  
※2021年末時点

### ステークホルダーへの提供価値

#### 顧客 (お客さま・お得意さま)

- ▶ 高品質な製品・サービスの提供によるウェルネスおよびロイヤルティ向上
- ▶ 飲料を通じたソリューション提供によるお得意さまのビジネス機会拡大への貢献 (B to B)

#### 取引先 (サプライヤー)

- ▶ 適正な取引・責任ある調達
- ▶ 会社の持続的な成長による長期的な関係構築および取引機会拡大

#### 社員

- ▶ 会社と社員がともに学び、利益を共有することによる社員満足度向上
- ▶ 能力を最大に発揮できる職場環境の整備

#### 地域社会

- ▶ 事業の成長と地域社会の発展に資するCSVの実現

#### 自然環境

- ▶ 低炭素社会や循環型社会の形成による環境負荷低減
- ▶ 生活者の環境意識向上への貢献

#### 株主・投資家

- ▶ 利益成長と株主還元充実による株式価値の向上

### 目指す姿

#### 企業価値向上のサイクルを継続強化

経済価値と社会価値の相互成長

価値創造の原動力となる資本の増強

#### 経済価値の創出

- ▶ 成長と効率化による事業成長
- ▶ 再投資資源の獲得

売上と利益の成長

変革とコスト効率化

資本の適切な管理・運用

#### 社会価値の創出

- ▶ CSVの実現による社会への還元
- ▶ SDGsへの貢献

(CSV Goals)

多様性の尊重 地域社会 資源

CSV Goals P11-12



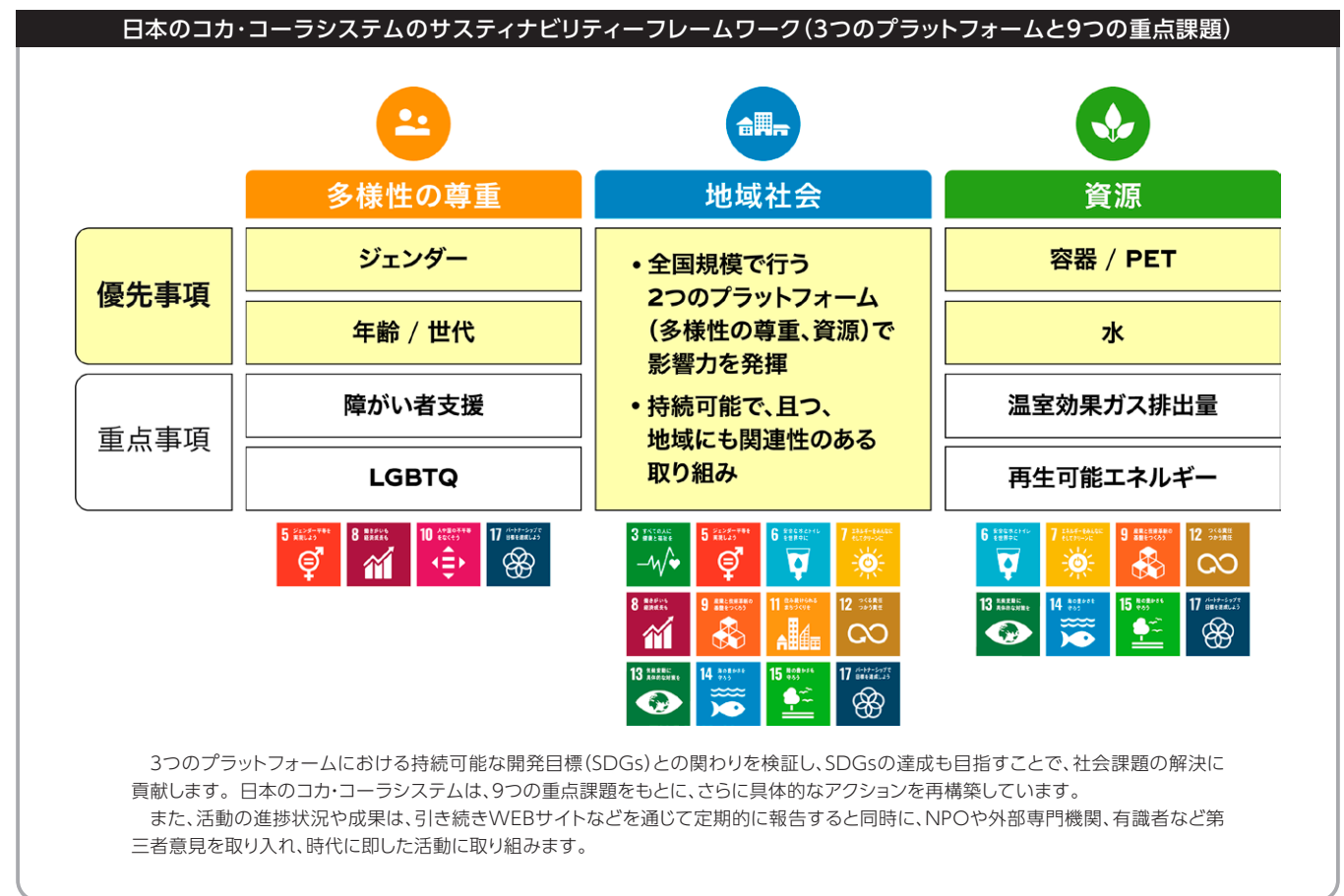
# サステナビリティフレームワークの考え方

2019年、日本のコカ・コーラシステムは、サステナビリティのグローバル目標達成に加えて、日本独自の課題をベースにした戦略を立案し、コカ・コーラシステム共通のアクションプランへ落とし込むことを目的に、サステナビリティの課題抽出と優先順位特定のための大規模な共同調査を行いました。

その結果、「多様性の尊重(Inclusion)」「地域社会(Communities)」「資源(Resources)」の3つのプラットフォームと直近に取り組むべき9つの重点課題が合意されました。

## サステナビリティ活動の目的

コカ・コーラシステムは、環境や日常生活、私たちを取り巻く地域社会などの各場面で、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。



## サステナビリティフレームワーク特定プロセス

- 1 外部調査により日本国内の社会課題を抽出
- 2 189の課題を33項目に絞り込み
- 3 33項目をマテリアリティ・マトリックスにプロットし、重点課題15項目を特定
- 4 コカ・コーラシステム内におけるインタビュー・ワークショップの実施とアップデート
- 5 3つのプラットフォームと重点課題9項目を特定



2019年実施のワークショップ



# INTERVIEW

## 企業価値最大化に向けた共創価値(CSV)の推進



執行役員 最高経営改革責任者  
兼 経営改革本部長  
荷堂 真紀

Q1 経営において「サステナビリティフレームワーク」とは、どのような位置付けでしょうか？

「サステナビリティフレームワーク」は、持続可能な社会を実現するための社会課題に取り組むことに会社がどのようにコミットしているかを内外に示しています。私たちは飲料メーカーですから、きれいな水や持続可能な環境がなくては生き残れません。それは私たちが事業を始めたときから常に解決すべき課題として経営の土台にありまして、経済的成長のために最近追加されたミッションではないのです。空気や水が生命維持に必須であると同様に企業が成長していく上でのファンダメンタルとなるものです。

Q2 「サステナビリティフレームワーク」を推進するためにどのような体制を構築していますか？

2019年に発表した中期経営計画で基本的なサステナビリティ計画を発表しました。ちょうど海洋プラスチックごみ問題が世界的にクローズアップされていたときで、私たちはPETボトル問題を強く認識し、ザ コカ・コーラ カンパニーが掲げる「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」の実現に向けて取り組みを始めていました。

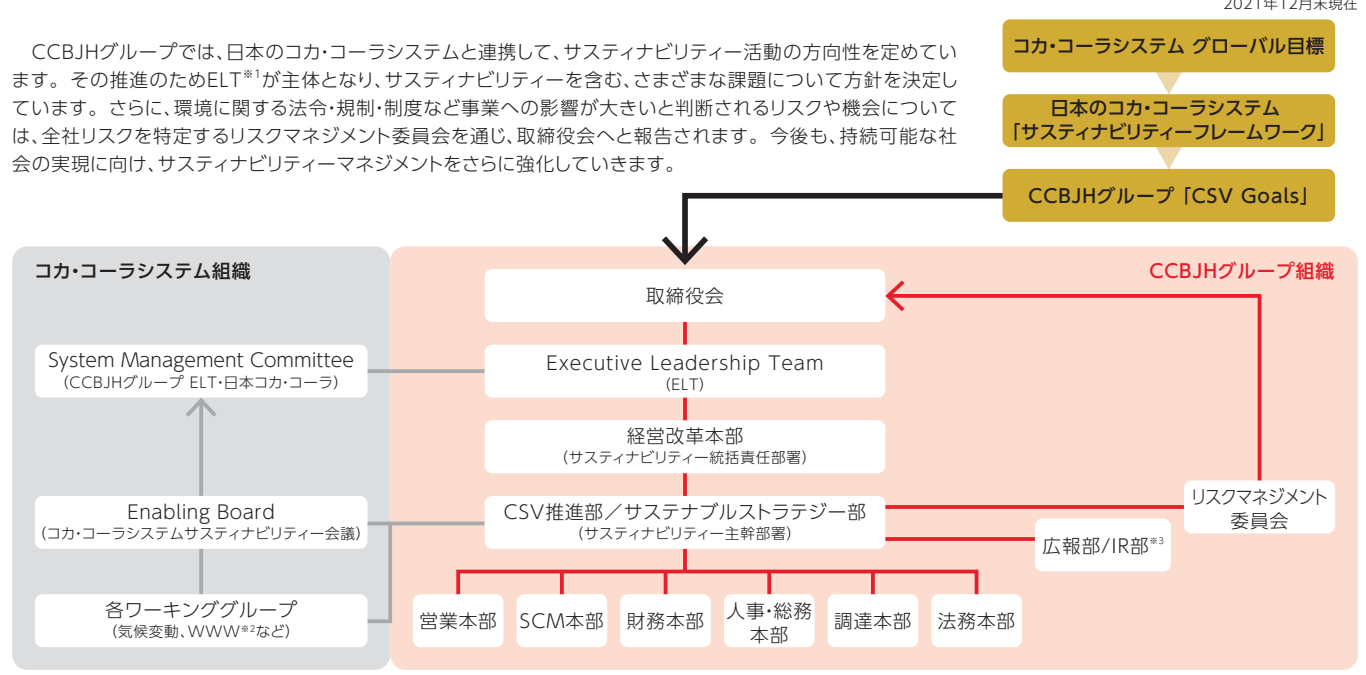
各事業部門においても、独自に社会課題解決に取り組んでいましたが、全体から見ると、たとえば水資源の削減を追求するあまりエネルギー資源増加につながるなど、コンダクター不在の問題が見えてきました。そこで今は、各チームを横断的に見通して「計画・立案・モニタリング」などの一貫戦略を行う経営改革本部直轄のセントラル・チームとして、CSV推進部/サステナブルストラテジー部に集約し推進しています。

Q3 共創価値(CSV)につながる「サステナビリティフレームワーク」と「CSV Goals」の関連性について教えてください。

共創価値(CSV)は、私たちの事業の根幹の部分で、社会的課題が近ければ近いほど、自分たちで解決しようとするモチベーションが生まれます。また、私たちのビジネスにとってコアであり、専門性もあり、投資も持続的にでき、かつ社会課題が解決されることで企業価値も上げることができるのです。このオーバーラップを突き詰め、選ばれた課題を取りまとめたものが「サステナビリティフレームワーク」です。そしてそれらの課題はどのように解決するかというところを示さないと物事は進みません。「CSV Goals」として具体的に設定した目標と数値があり、そのあるべき姿に近づけるために何をすべきか、そして近づいた結果が数字になって表れている、この循環がとても大切であり、これこそが「CSV Goals」の役割であり、「サステナビリティフレームワーク」とのつながりです。

ステークホルダーのみならず未来につながる持続的な社会の実現に向けて、私たちが事業を通じて社会課題に積極的かつ持続的に取り組んでいけるよう、これからもCSVの取り組みを強力に推進していきます。

## サステナビリティマネジメント体制図



※1 ELTはCEOと各本部長を含めたCCBJHグループ全体のマネジメント組織 ※2 WWWIはWorld Without Waste(廃棄物ゼロ社会)の略称 ※3 報道機関/株主・投資家へのコミュニケーション

# CSV Goals

日本のコカ・コーラシステム共通のサステナビリティフレームワークをベースに、CCBJHグループではより具体的な目標として「CSV Goals」を定め、持続可能な事業と社会、そしてミッションの実現に向けて取り組んでいます。

「サステナブル素材<sup>\*1</sup>の使用率」については、「ボトルtoボトル」の取り組みなどを加速させ、2021年末実績で40%を達成しています。また、水源地域の森林保全団体との連携強化により、2021年末実績の「水源涵養率」は目標を大幅に上回っています。「社員のボランティア参加率」は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、ボランティア活動が制限され、低い値に留まっています。COVID-19が終息した後は目標を達成できるよう環境を整えています。

毎年取り組みの進捗を確認しながらバリューチェーン全体でPDCAサイクルを回し、着実に目標達成に向けて歩みを進めています。

▶▶▶ 80%以上  
▶▶ 50%~79%  
▶ 50%未満

※記載のない限り、基準年は2015年、目標年は2025年

サステナビリティフレームワーク	重点課題	項目	目標数値	2020年実績 (12月末)	2021年実績 (12月末)	進捗度
多様性の尊重	ダイバーシティ & インクルージョン	女性管理職比率(2025年までに)	10%	5.8%	6.3%	▶▶▶
		女性管理職比率(2030年までに)	20%			▶▶▶
地域社会	製品 (ニーズに合わせた製品開発/健康サポート)	主要ブランドでのノー/低カロリー製品のラインナップ	100%	100%	100%	▶▶▶
		特定保健用食品(トクホ)および機能性表示食品の販売数量増(2016年比)	300%	190%	177%	▶▶▶
		パッケージ前面でのカロリー表示およびわかりやすい栄養表示	100%	100%	100%	▶▶▶
		コカ・コーラシステム「責任あるマーケティングポリシー」の遵守	100%	100%	100%	▶▶▶
	社会 (地域社会への貢献)	社員のボランティア参加率	10%	—	3.7%	▶▶▶
		コミュニティプログラム参加人数累計	100万人	89万人	90万人	▶▶▶
資源	World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)	サステナブル素材 <sup>*1</sup> の使用率(2022年までに)	50%	28% <sup>*2</sup>	40%	▶▶▶
		サステナブル素材 <sup>*1</sup> の使用率(2030年までに)	100%			▶▶▶
		サステナブル素材 <sup>*1</sup> 使用製品の割合(販売本数ベース)(2025年までに)	100%	約90%	約90%	▶▶▶
		さらなるPETボトルの軽量化(2004年比)(2030年までに)	35%	30%以上	30%以上	▶▶▶
		販売量と同等の回収量(2030年までに)	100%	96.7% <sup>*3</sup>	—	▶▶▶
		環境保護団体や業界団体との幅広い連携(2030年までに)				▶▶▶
	水	水源涵養率、工場近辺の水源、流域に注力	200%	364%	353%	▶▶▶
	水使用量削減(2030年までに)	30%	19%	19%	▶▶▶	
気候変動	温室効果ガス削減 スコープ1、2(2030年までに)	50%	19% <sup>*4</sup>	21%	▶▶▶	
	温室効果ガス削減 スコープ3(2030年までに)	30%	17% <sup>*4</sup>	23%	▶▶▶	
	温室効果ガス排出量実質ゼロ(2050年までに)				▶▶▶	
調達/人権 (事業基盤の強化)	再生可能エネルギーの推進				▶▶▶	
	持続可能な原材料調達	100%	100%	100%	▶▶▶	
	CCBJHグループバリューチェーン上でのサプライヤー基本原則(Supplier Guiding Principles)の遵守	100%	100%	100%	▶▶▶	

<sup>\*1</sup> サステナブル素材: 「ボトルtoボトル」によるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計  
<sup>\*2</sup> 2020年までは「ボトルtoボトル」比率  
<sup>\*3</sup> PETボトル回収率(出典: PETボトルリサイクル推進協議会「PETボトルリサイクル年次報告書2021」)  
<sup>\*4</sup> 2021年10月のGHG排出量削減目標公表に合わせ、新基準での集計方法に基づく実績



CSV Goalsの詳細  
<https://www.ccbj.co.jp/csv/csvgoal/>



## 「CSV Goals」の社内浸透への取り組み

私たちは、一人ひとりの意識変化や行動が、社会課題の解決と同時に、CCBJHグループの成長と企業価値の向上につながると考えています。そのために、日本のコカ・コーラシステムの「サステナビリティフレームワーク」や、CCBJHグループの非財務目標「CSV Goals」について、社内への周知と理解促進に向けてさまざまな施策を実施してきました。

2021年からは、さらに社内への浸透を図るため、社員が「CSV Goals」を理解・共感・納得して行動につなげる「ジブンごと化」を目指して、社内イントラネットを活用した定期的なオンライン勉強会や、eラーニングなどを実施しています。

### 【社内イントラネットの活用】

- オンライン社内勉強会
- CSVライブラリの開設(社内イントラネットへの情報集約)
- 毎年、社員の約9割がeラーニングを受講
- 社内SNSでの発信(「CSV Goals」、SDGsと紐づけた取り組み事例紹介)



## 国連グローバル・コンパクトへ賛同



私たちは国連と民間企業・団体が協同し、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティイニシアチブ、国連グローバル・コンパクト(UNGC)に2022年3月署名、4月に賛同を発表しました。UNGCが掲げる、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を実践し、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでまいります。



# CCBJHグループの製品・ブランド一覧

CCBJHグループは、みなさまのさまざまなライフスタイルや健康的な生活をサポートするために、カテゴリーやフレーバー、パッケージなど豊富なラインナップを取り揃え、ハッピーなひとときをお届けしています。  
また、100%リサイクルPETなどサステナブル素材\*を使ったパッケージの導入やラベルレス製品の展開、容器1本あたりのプラスチック使用量削減を目的としたボトル軽量化の促進などにも注力しています。

\*サステナブル素材：「ボトルtoボトル」によるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計



CSV Goals「製品」に関わる主な製品

- ★ ノー/低カロリー製品
- 特定保健用食品(トクホ)
- 機能性表示食品



**リサイクルしてね 100%リサイクルPET**

100%リサイクルPETは、使用済みPETボトルを回収し、新たにPETボトルとして再生する取り組み「ボトルtoボトル」によりつくられ、5ブランド・37製品\*を展開しています。  
※ 2022年2月現在の日本のコカ・コーラシステム実績。CCBJHグループでは、4ブランド・34製品

**ラベルレスボトル**  
リサイクルしやすい

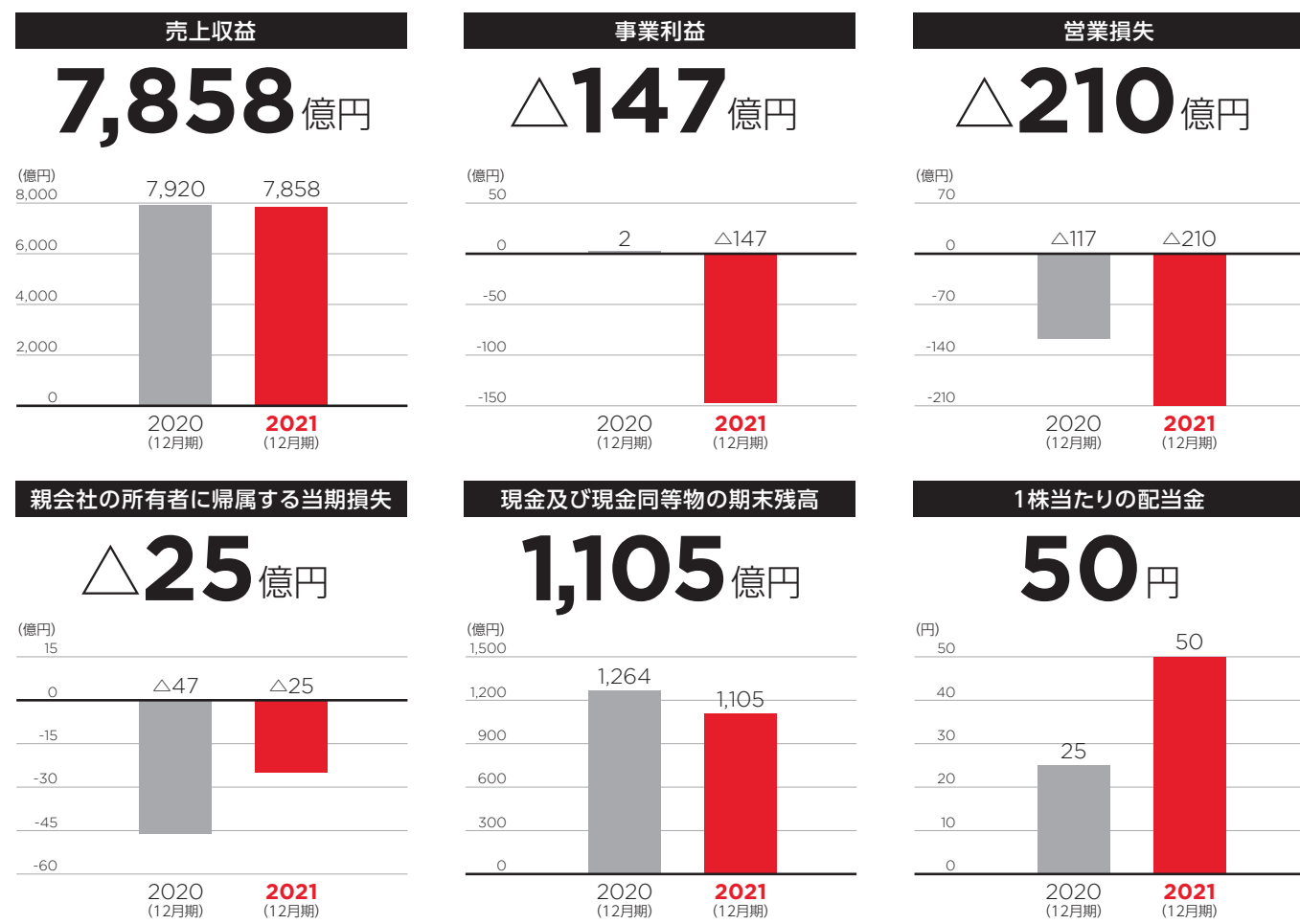
ラベルレス製品は、容器からラベルをなくすことにより、ラベルをはがす手間をなくし、リサイクルのための分別が楽になる製品です。2020年4月に発売した「い・ろ・は・す 天然水」に続き、「綾鷹」、「爽健美茶」、「アイシー・スパーク from カナダドライ」、「アクエリアス」、「コカ・コーラ」など、8ブランド・18製品を、オンライン販売中心に展開しています。

2022年5月末現在



# 財務ハイライト

## 2021年12月期連結決算ハイライト(IFRS)



※事業利益は、事業の経常的な業績を計るための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費および一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものです。

## 2022年の主な目標指標



\*サステナブル素材：「ボトルtoボトル」によるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計

# 外部評価と社外への賛同・参加

## 外部評価

私たちの社会課題の解決に向けた取り組みは、行政や外部機関より高く評価され、さまざまな賞をいただきました。



※ CCBJHグループや日本コカ・コーラが取得したものです。  
※ このほか、2019年度「東京都障害者雇用エクセレントカンパニー賞」産業労働局長賞受賞、環境マネジメントシステム[ISO14001]認証取得、食品安全マネジメントシステム[FSSC22000]認証取得

## 社外への賛同・参加

さまざまな社外へのイニシアチブに賛同・参加することにより、社会課題の解決に取り組んでいきます。



※ このほか、「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」ことを目指し、経済産業省が公表した「GX(グリーン・トランスフォーメーション)リーグ基本構想」と環境省がテナント企業などによる脱炭素化への取り組みを取りまとめた「リーディングテナント行動方針」に賛同しました。

